

# 「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

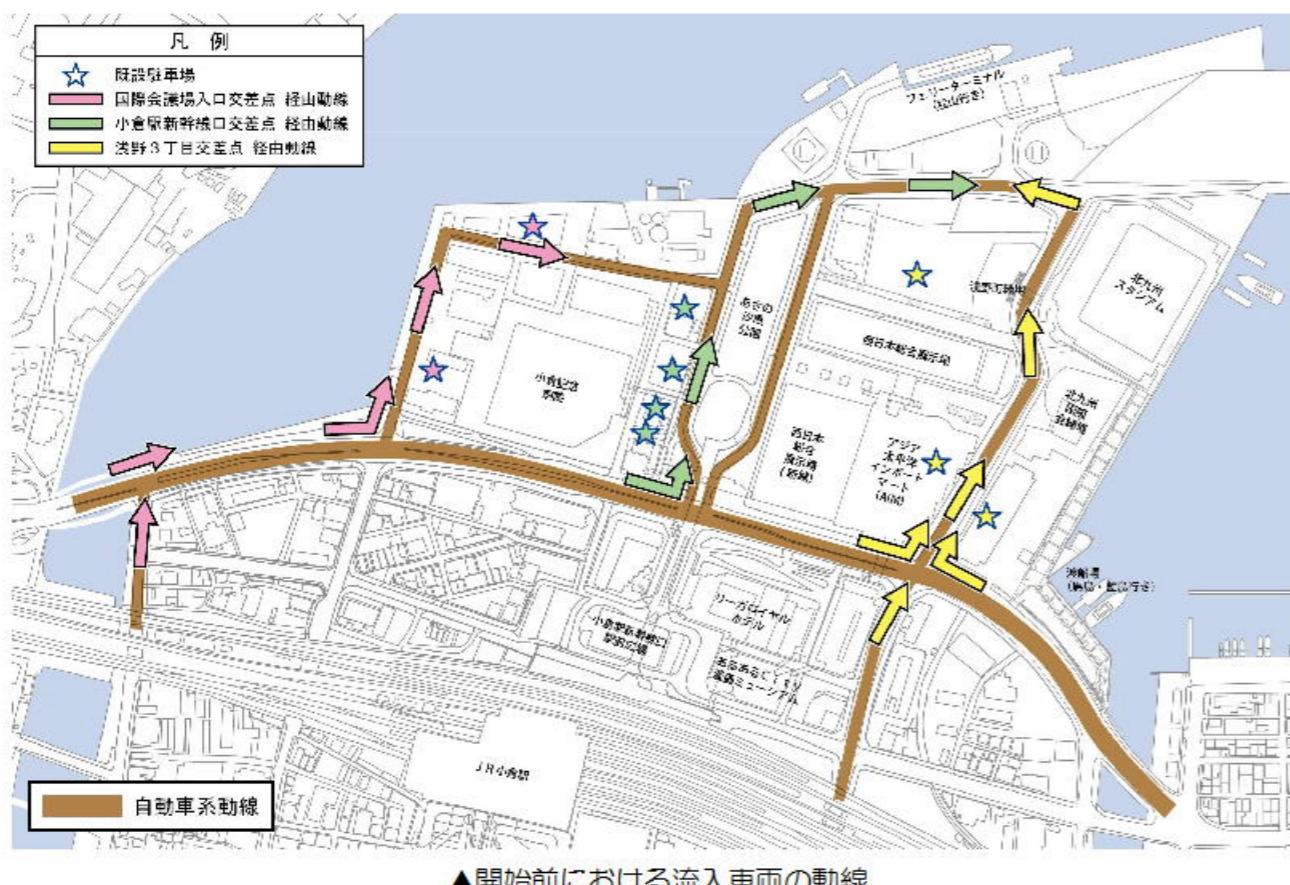
## (5)周辺の交通アクセス環境を考慮した車両交通対策

西日本総合展示場やあさの汐風公園など既存の集客施設において、多くの来場者が見込まれるイベント開催時は、新幹線口地区の主要道路である国道 199 号ほか、周辺の道路においても渋滞が発生している。新たに整備する北九州スタジアムは、新幹線停車駅である JR 小倉駅から直線距離 500m、徒歩約 7 分と全国 1 番の立地条件であること、また、エコスタジアムとして環境負荷の低減につながるよう、公共交通機関を利用した来場を基本としており、市民への PRを行っていくこととしている。

一方で、高齢者や子ども連れのファミリー層など、車の利用が必要な方の来場も見込まれることから、周辺の交通環境への影響を最小限に抑えるため、国道 199 号以北における駐車場の配置状況及びイベント・試合開始前および終了後の集散状況を考慮した渋滞対策の方向性を示す。

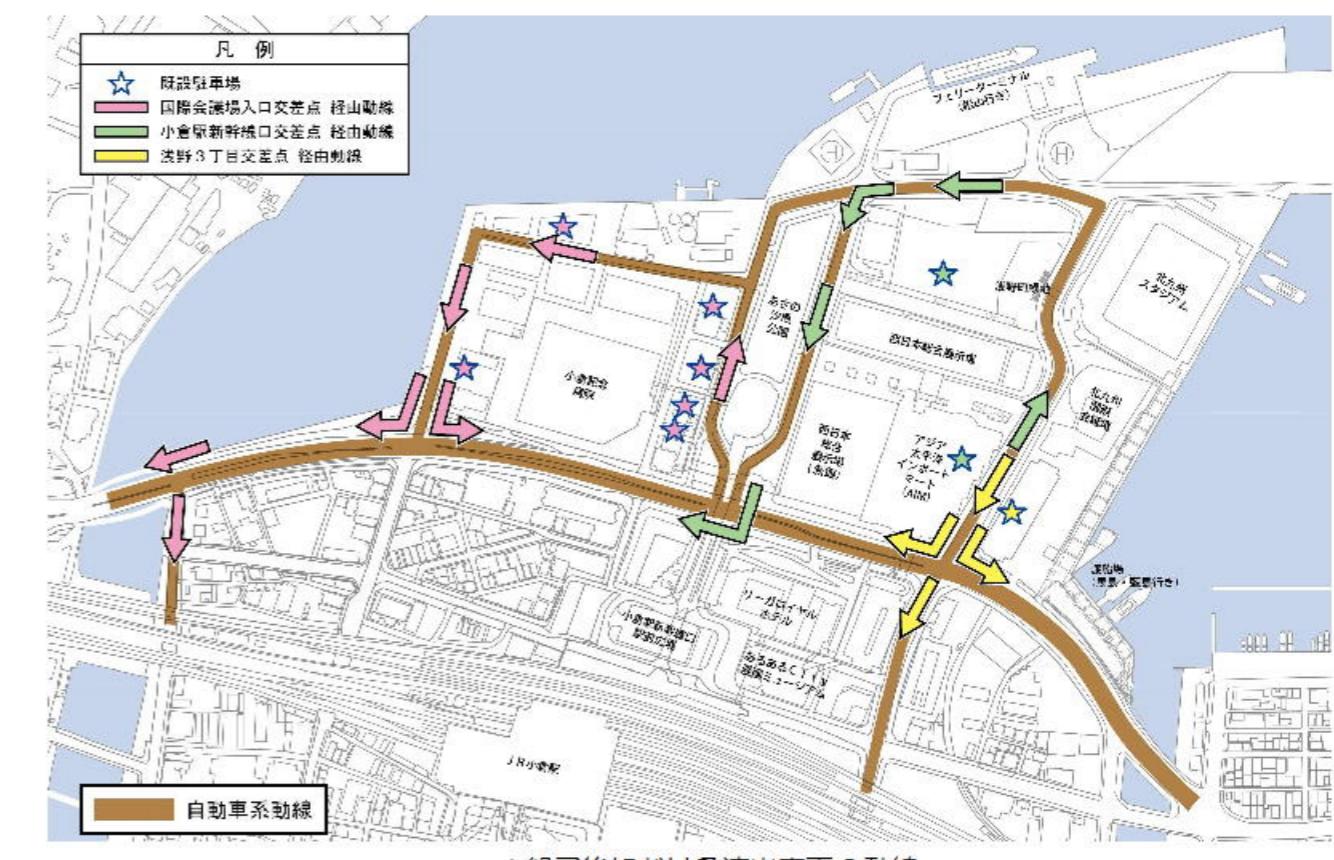
### 1)イベント・試合開始前の車両流入動線

各方面から、地区内の各駐車場までの車両動線が短くなる経路へ誘導する。



### 2)イベント・試合終了後の車両流出動線

地区内にある駐車場から流出する車両が安全に移動できる経路へ誘導する。



## (6)交通アクセス環境の向上に向けた対策

既存の集客施設におけるイベント開催時の交通状況やスタジアムでのイベント・試合開始前、終了後の状況を想定し、国道 199 号との交差点（国際会議場入口、小倉駅新幹線口、浅野三丁目）における交通処理検討を行った。

# 「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

## ▼主要交差点における課題と対策

### 【浅野三丁目交差点部】

課題：全方向の1レーンであるため  
交通の錯綜や渋滞発生の可能性  
対策：右折レーンの設置



【現況写真】



### 【小倉駅新幹線口交差点部】

課題：右折レーン長の不足、容量不足による  
右折・直進車の混在  
対策：車線運用の変更（右折レーン2・直進左折レーン1）、  
右折レーンの延伸



【現況写真】

### 【国際会議場入口交差点部】

課題：右折レーン長の不足による  
右折・直進車の混在  
対策：中央分離帯撤去により右折レーンの延伸

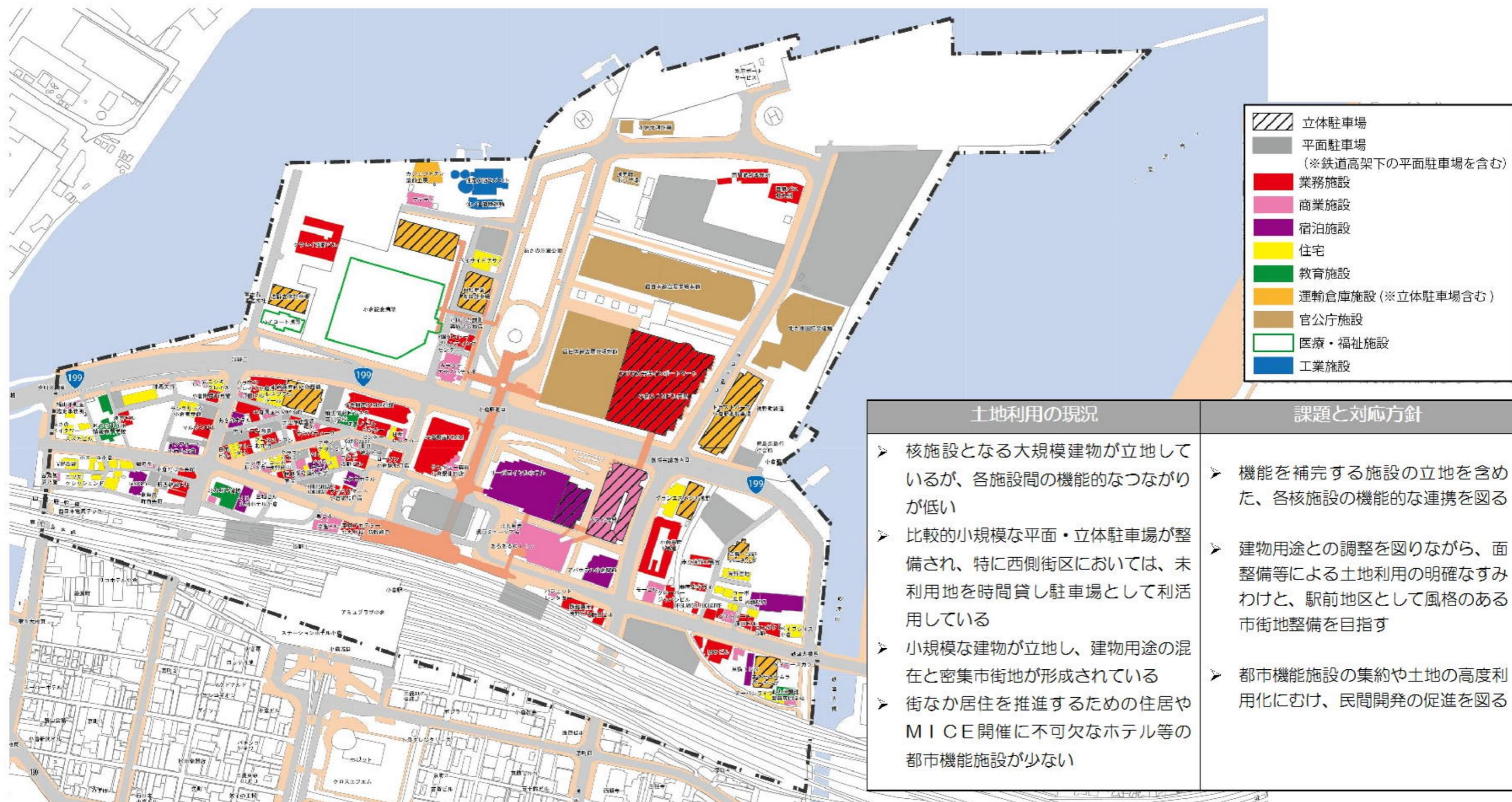


【現況写真】

# 「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

## (7) 都市再生に向けた民間活力の導入

### 1) 土地利用の現状

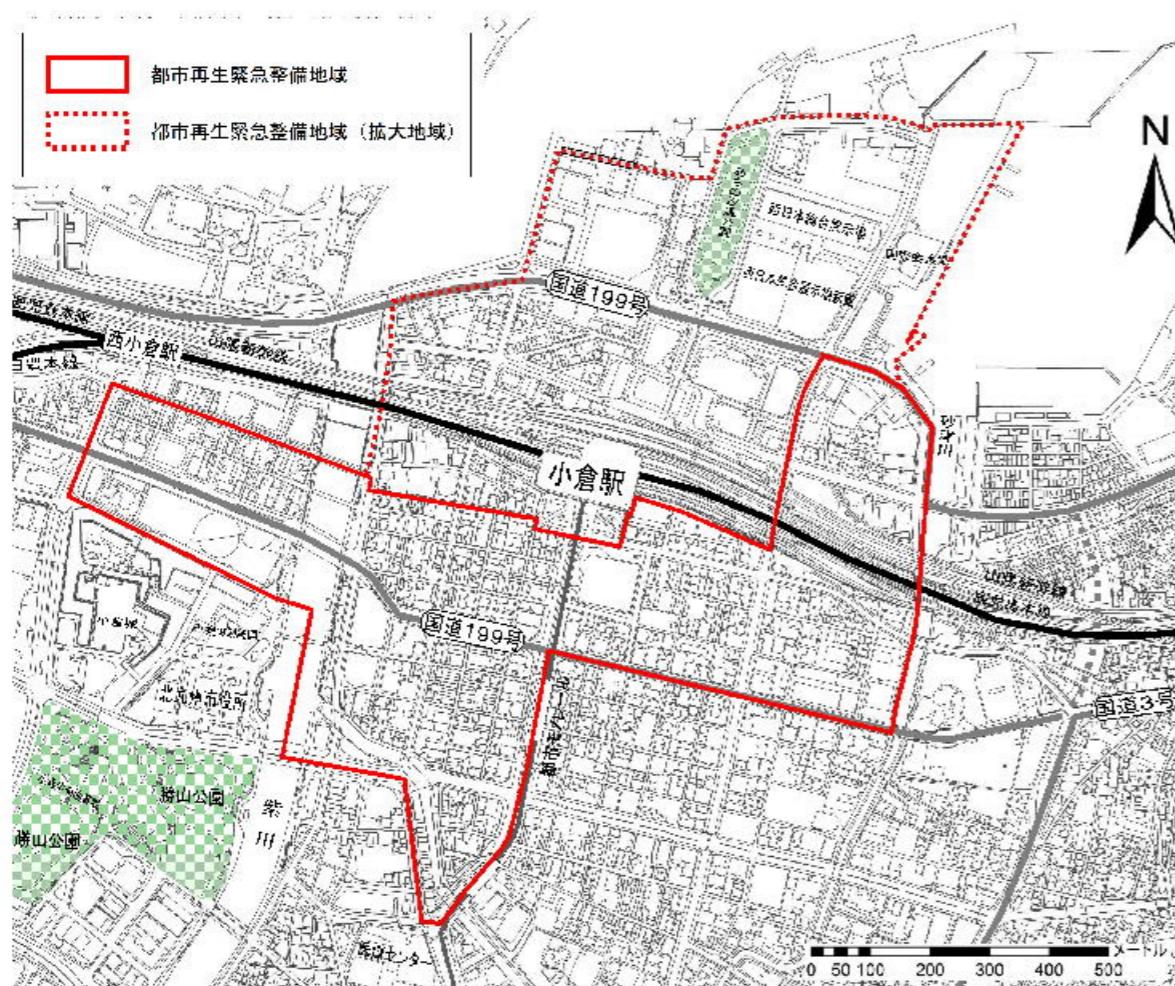


▲土地利用等の現状（平成 26 年 10 月調査時点）

# 「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

## 2)都市再生緊急整備地域の拡大

官民が連携して市街地の整備を強力に推進し、さまざまな企業・人達を呼び込むことができるような魅力ある都市拠点の形成のため、小倉駅周辺に指定されている『都市再生緊急整備地域「小倉駅周辺地域』の区域を新幹線口地区に拡大（平成 27 年 7 月 24 日政令公布）。



### ・・・ 都市再生緊急整備地域とは・・・

都市再生緊急整備地域において、民間事業者が 0.5ha 以上の都市再生事業（※1）を行う場合、

- ①自由度の高い都市計画の提案ができる
  - ②提案から都市計画決定・事業認可までの期間を大幅に短縮できる
- さらに、民間都市再生事業計画の認定（※2）を受けた場合、
- ③事業立ち上がりの金融支援、公共施設整備の支援等でバックアップが受けられる
  - ④税制上の優遇措置が受けられる

※1 公共施設の整備を伴う面的整備事業で、都市再生緊急整備地域内で行われる一定のもの

※2 地域整備方針に適合し、都市の再生に著しく貢献するものと国土交通大臣に認められた 1ha  
(一体的に複数の事業を行う場合は 0.5ha) 以上の都市再生事業

## 4. 今後の取組み

### (1)用途制限の見直し

本市では、今後の急速な人口減少と超高齢化が想定されるなか、地域の活力を維持・増進し都市を持続可能なものとするため、また、都市全体の構造を見直し、コンパクトなまちづくりを進めていくため、「立地適正化計画」の策定に取組んでいる。

新幹線口地区においては、立地適正化計画を踏まえ、より一層のまちの活性化に向けて、新たな土地利用転換が見込まれる区域において、土地利用に関する規制のあり方の見直しを検討し、都市的な土地利用を促進する。

### (2)より安全で快適な歩行空間の創出に向けた検討

本構想や都心集客アクションプラン等の取組みにより、新幹線口地区への新たな集客や民間開発の動きが期待される。

今後の民間開発の動向を踏まえ、歩行者の安全で快適な歩行空間の形成のために、ペデストリアンデッキの延伸等を検討していく。